

# 一水会報

編集発行  
東京都一水会  
事務局  
江東区立  
枝川小学校  
校長 加藤 勲

## 想像力を働かせ、人材育成を図る

東京都一水会副会長 山田 晴康



### はじめに

新型コロナウイルス感染症が『第5類』となり、五か月近くが経とうとしていきます。街中では、マスクをしていない方々が多く見られるようになり、少しづつ、コロナ禍前の日常に戻りつつあることを感じるこの

頃です。

では、学校の中の日常はどうでしょう。教育活動などのすべてをコロナ禍前に戻すという発想ではなく、コロナ禍において、各学校が知恵と工夫を出し合った取組を生かしながら、更なる教育活動の工夫・改善に向き合っているのではないかと思います。コロナ禍を一つのきっかけとして、教育活動の意義や目的を見直し、教育活動をよい意味でシンプルに、そしてスリム化しながら工夫・改善してきたことは、今後の学校改善、そして教職員の働き方改革などにもつながる前向きな取組となつていると考えます。今後も、一水会でのつながりを大切にしながら、互いの学校経営に向けての創意工夫を共有し、切磋琢磨していくことは必要であり、重要なことです。互い

が高め合う、そんな一水会でありたいものです。

### 研修の一水、面接練習に思う

九月に入り、二次選考の面接練習が行われました。そこには、受講生の皆さんの『絶対に受かるといふ熱』、そして、指導校長、一水教育研究所の方々の『絶対に受かせたいといふ熱』が交わり合っていました。それこそが、「研修の一水、人材育成の一水」に脈々と引き継がれる伝統であることを感じます。

面接練習時、受講生から受け取る面接票、論文の概要版、そこから受講生との対話が始まります。例えば、校長選考の面接票にある、「あなたが過去一〜二年間で教育管理職等として特に取り組んだ教育課題と解決に当たった問題点及び成果について（具体的に）」の内容では、そこに記載されている内容から、面接官がいろいろなことを想像し、問いかけます。「成果を出すためにはたくさん苦労があったのではないか」、「もし成果が出なければ、他にどんな手立てを考えていたのだろうか」、「この取組を通して、具体的にどのように入材育成を図っていたのだろうか」

「日頃からの課題意識の持ち方はどうだったのだろうか」などなど、いろいろなことが考えられます。このような問いと回答のやり取りを通して、受講生は自分の学校経営についての考えを整理したり、また自校の課題解決の手立てをより具体化したりしていました。面接練習は、自分の学校経営への考えをシミュレーションし、そして研ぎ澄ましていく過程であることを改めて実感いたしました。

また、逆に考えると、受講生は、自分が自信をもっていること、面接で聞いてほしいことなど、自分の土俵に話をもっていくために、面接票を仕上げるのが大切です。そこには、面接官が問いかけてくることを想像しながら作成していく視点が重要となつてきます。

結局のところ、互いに相手に思いを馳せ、想像力を働かせていくことこそ、人材育成の基盤と言えるのではないのでしょうか。

### 教育は人なり

この言葉は、教育に最も大切なことは人間性であり、人と人とのよりよいかかわり・信頼関係をつくること重要であるということを表しています。

今後も、一水会として、互いに想像力を働かせ合いながら、理解し合い、磨き合い、そして共に高め合うことができる仲間として協働していきましょう。

そして、「研修の一水、人材育成の一水」の歩みを、覚悟をもって一歩ずつ進めてまいります。どうぞよろしくお願ひします。

「研修局」の一年目  
〜本年度の取組〜

研修局長 荻原 誠

今年新たに創設された研修局は、校長選考部、A選考部、BC選考部、主任選考部を統括し、昨年度まで研修部が築き上げてきた「研修を通して教育者、そして人間としての人材育成を図ること」を継承して活動をすすめている。今年度は九月末現在以下のような取組を行った。

○第一回合同研修会

- ・日時 令和五年五月二十日 午後三時
- ・会場 豊島区立目白小学校
- ・内容 講演会と各選考の演習  
(講師：東京一水会会長 加藤 勲 先生)

○第二回合同研修会

- ・日時 令和五年六月十八日 午前十時
- ・会場 文京区立千駄木小学校
- ・内容 校長・副校長任用前審査のための面接練習とA選考に向けての論文演習

○第三回合同研修会

- ・日時 令和五年九月二十四日 午前十時
- ・会場 文京区立千駄木小学校
- ・内容 講演会とABC選考面接練習  
(講師：東京一水会会長 加藤 勲 先生)

この他にも、主任教諭選考候補者を対象とした主任教諭研修会を区部と市部でそれぞれ二回ずつ計四回、校長選考研修会を講演会と面接練習を含めて計三回実施した。

それぞれの研修会では、多くの指導校長先生方、一水教育研究所の先生方にご協力いただき、熱心にご指導いただいた。そのおかげで、各会に参集した研修生も安心して学びを深めることができた。指導校長を引き受けてくださった多くの校長先生方、いつも応援して下さる一水教育研究所の先生方に心から感謝申し上げますとともに、研修を陰で支えて下さっていることを改めて実感した。また、それぞれの研修会で会場を提供して下さる校長先生、実施会場がある支部の支部長先生をはじめとした各支部の会員の皆様の献身的な協力体制には、いつも頭の下がる思いである。本会会員が一人でも多く合格し活躍されることを願ってやまない。

校長職候補者選考の  
職務論文の作成について

校長選考部長 佐藤 公信

副校長職は多忙を極め、見通しが立たない日々の激務の中で時間を生み出し、自ら研鑽を積むのは容易なことではない。

これまで今年度の研修会は、都合五回開催された。熱心に受講された研修生の皆さんの姿勢と、ご指導くださった先生方の熱のこもった実践的なご指導に心より感謝申し上げる次第である。

さて、来年度の校長職候補者選考は、既に始まっている。私自身過去に職務論文の作成について、多くの先生方からご指導いただいた。以下、私の拙い経験からの感想を書かせていただく。あくまでも、個人の感想としてお読みいただきたい。

①インパクトを与える

インパクトのある書き出しは読み手の心を惹きつける。偉人が残した言葉、諺、法則、自ら作り出した言葉など。読み手はインパクトのある表現に興味をひかれ、論文を読み終えるまでの間、残像現象として意識に残り、読み方にも影響を及ぼすと考えられる。

ヒントは身の回りに多々ある。読んだ本、職員室での会話、電車の広告、新聞、テレビ、ラジオから発見することが可能である。

②「概要版」を土台にする

概要版は二次試験で評価されるが、まず第一に概要版を作成する。概要版では、自らの構想が選りすぐりの文言で示されている。ここに示されたことについては、全てにおいて完璧に答えられるようにしておかなければならない。概要版を土台としての職務論文である。

③五月の連休中に職務論文を  
一本書き上げる

職務論文は、最低この時期までには一本は書き上げたい。そして、その論文を五月下旬の合同研修会でご指導いただく。また、研修生同士で見合う。様々な刺激を受けて、切磋琢磨することが大切である。

以上、自らの拙い経験から書かせていただいたが、根本にあるのは、現在の日々の職務に全力を尽くすことである。自ら考え、得たことは、職務論文に生き生きと現れる。現在、副校長にもかわららず学級担任を受け持ち、奮闘されている方もいるであろう。しかし、決して希望を失わず、苦難や苦勞を力に替えて、自信をもつ

て次のステップへと進んでいただきたい。

教育管理職A選考研修  
（行政感覚を兼ね備えた  
管理職の育成）

A選考部長 上松久美子

管理職A選考のねらいは、現場感覚と行政感覚を兼ね備えた管理職を育成することである。本選考合格後は、教育管理職候補者及び指導主事として、これまでと全く異なる職務に当たることとなる。

管理職A選考の研修は、先のような管理職を育成するという長期的な視野の基に、指導主事として、着任時の不安を解消し、活躍するために必要な資質・能力を身に付けることをねらいとしている。例年、本研修で職務に対して具体的な理解を深め、指導主事となる覚悟を固めたという受講生も多い。

一水会の合同研修会で実施している。計四回の研修のうち、第一～二回は「指導主事の仕事の実際」「指導主事に求められる資質・能力」についての講話・演習、第三回は面接演習、第五回は合格者向けの事前研修の予定である。今年度は、対面での実施を計画し、実際に思考し、面接等の実践の中で受講生の職に対する理解

が深まり、意欲の高まるものにしていきたい。

多様な対応を求められる学校教育において、指導主事が学校現場と行政をつなぐ役割は更に重要となる。今後も研修を通して、実践力のある指導主事の育成を目指していく。

教育管理職

B C選考研修

B C選考部長 井口 修

B C選考部会では、副校長をめざすB C選考研修生を対象とする内容を毎年計画している。昨年度より対面形式での研修会を行うことができようになった。今後も各支部とも連携しながら、研修を充実させていきたい。

一、管理職とは（講義）

五月二十日（土）、豊島区立目白小学校（西村 浩 校長）を会場に、校長選考、A選考、B C選考、指導主事部合同で全体会を行った。その後、B C選考部役員が講師となり、第一回研修会（講義・情報共有）を行った。前半は講義形式で管理職の役割や心構え等、基本的なことを改めて確認した。後半は対面形式のよさを生かし、管理職を目指す主幹教諭、主

任教諭から具体的な質問を受けたり、小グループで情報交換をしてから全体で発表したりした。この会では、推薦枠での受験生中心であったため、論文指導については個別に情報提供をした。

論文については、まず基本的な姿勢はどうか。設問の吟味、改善策の提示についてはどうか。また、今までも言われ続けてきたことであるが、課題に正対していることが必要最低限の心がけである。

設問から論文に取り上げる課題を吟味し選択し、自己の教育実践を踏まえて、課題解決を論述することが大切である。自分の実践を整理するよい機会にしたい。

○論文の書き方の基本

- 副校長の立場で書く
- 課題は何か 2～3つの柱に絞る
- 課題に対して対応して論述
- 組織的対応、人材育成を策に
- 自己の実践を踏まえ、具体例を盛り込みながら

二、面接研修

六月十八日（日）に、第二回研修会（面接練習）を、九月二十四日（日）には、第三回研修会（面接練習）を行った。両日とも文京区立千駄木小学校（山口 麻衣 校長）が会場であった。

（いずれもA選考、B C選考、指導主事部合同）第二回研修会は任用

審査面接の直前、第三回研修会は選考一次の発表後の研修会となるので、毎年研修生の意気込みがひしひしと伝わってくる。

二次選考では個人面接で表現力、理解力、判断力、積極性などについて評定される。面接の聞き手は、受験生の実力の保証を求めている。笑顔で人と接するトレーニングと見栄えのする写真の準備も大切である。

面接のポイント

【面接票について】

まず、面接票をきちんと仕上げるのが大切である。教育管理職を志す理由、勤務校における課題とその解決に向けた自身の取組（具体的に）、教育管理職として特に活かしたい能力・経験等及びその理由等、について記すこととなっている。これらを、面接を想定しながら記入していくことが大切である。

【面接で留意すること】

- 一 副校長になったつもりで答える。
  - 経営者の視点
  - 公務員の視点
  - 人材育成の視点
- 二 精神的強さ、情熱意欲をアピールする。
  - しっかりとした声で管理職としての重みを醸し出す。
  - 今までの経験を生かす

### 主任教諭選考研修会報告

主任教諭選考部長 山崎 義弘

● 教育の要諦をぶらさない

三 試験官の性格を感じる

● 試験官の立場と興味・関心

● 質問の裏の意味を考える

● その上で、試験官の望む答えではなく、自分の考えを述べる。

● 今まで努力してきたこと、悩んだこと、成果をあげてきたことを、自分の言葉で語ることと、副校長としての意欲、迫力、明るさを見せて自信をもって答えることである。

四 試験当日は

● 集合時三十分前には到着する。

● 身なりを整える。ズボン、スカートの折目をアイロンがけ

● 持ち物にも配慮

● 清潔感のある鞆（リュックはよくない印象になることも）

● 靴はピカピカに（足元はよく見られる）。

● 終わったら管理職に報告、お礼復元しながらリフレクション

三、合同研修会

二月三日（土）、中野区立桃園第二小学校（山崎 義弘 校長）を会場に、校長選考、A選考、B選考、指導主事部合同で、任用前審査合格者を対象とした合同研修会を開催する予定である。

七月十六日（日）の主任教諭選考試験に向け、令和五年度主任教諭選考研修会を、六・七月に四回実施することができました。開催に際し、会場の校長先生、会場校支部の先生方にはご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。また、研修に際しましては、各支部より、多くの指導校長先生のご協力を賜りました。一人ひとりの研修生に手厚くご指導いただき、研修生にとって大変充実した研修となりました。皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。以下、研修会の内容等につきまして、ご報告いたします。

二、講話（全体研修）

全体研修会では、一水教育研究所の石川清一郎先生、松浦正和先生に講師をお願いし、研修生に対して講話を行っていただきました。

第一回研修会では、直近の選考問題の傾向から、主任教諭に求められる能力や役割についてご指導いただきとともに、選考問題に正対するための視点についてご指導いただきました。

第二回研修会では、令和四年度の問題に対して職務レポートを書き上げるために、「分掌」「課題」「最重要と考える理由」「取組」といった設問の視点ごとに書き方をご指導いただきました。

三、指導校長による添削指導

第一回研修会で研修生は、令和四年度の問題に対する職務レポートを書くためのプロットを作成し、担当の指導校長から指導を受けました。指導校長先生方は、研修生に対し、「担当する職務として何を上げるのか」「担当職務においての課題をどう考えるのか」「なぜそれを課題と考えるのか」「その課題に対してどのような取組を行うのか」について一つ一つ丁寧に聞き取り指導してくださいました。

第二回研修会で研修生は、書き上げた職務レポートについて添削指導を受けました。指導校長先生方は、

研修生に対し、あたたかく的確な指導をしてくださいました。九十分の研修時間が足りないほど熱い研修の時間となりました。

四、研修生の感想

● 本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございます。主任教諭としての心構えや職務への態度に関わること、講義、また論文の考え方、構成、書き方などの対面指導もいただき、論文のポイントだけでなく、主任教諭として職務にあたることについても改めて意識していく必要があることが分かりました。

● 選考を通して、東京都がどのような教員を求め、育てようとしているのかという熱意や理想を身に染みて感じました。子供たちの未来を担う教員として、より一層の決意を深めると共に、このような機会を頂いたことに深く感謝しています。

五、終わりに

昨年度の研修に参加した研修生が五〇三名で、今年度は五一九名でした。五百名を超える研修生が毎年参加しています。東京都一水会が開催する「主任教諭選考研修会」は、多くの教諭の意欲とニーズに添えていくと考えます。

研修会に参加した教諭は、全体研

修会での講師の先生から、求められる主任教諭像について学んでいます。さらに、個別の添削指導において、指導校長先生方から主任教諭に求められる職責についての言葉をいただいています。これらの学びが、明日の東京都の教育を担う人材の育成につながっていると強く感じます。

**令和五年度  
幼稚園・園長選考問題解説**

幼稚園・子ども園部長補佐

前田 宏子

文部科学省では「令和の日本型学校教育」を目指し、質の高い学びに向けた取組を推進している。幼児教育の質的向上と小学校教育との円滑な接続を図り、接続期の教育を充実する必要はあることは幼稚園教育要領の中にも明記されている。特に5歳児から小学校一年生の二年間を「架け橋期」と位置づけ、全ての子どもに学びや生活の基盤を保障することになった。

今年度の幼稚園園長選考の筆記試験においては選考会場で作成する方法から事前に作成し提出する方法に変更になった。同時に面接試験の際の資料とする概要版の提出も行うことになった。

設問は架け橋期における幼稚園教

育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるにあたり、区の課題や方針、現任園の状況を踏まえ、具体的にどのように行っていくかを問われている。

まず、設問の課題を捉えるにあたり、架け橋プログラムのねらいを考慮することが必要である。「幼保小の架け橋プログラム」の実施に向けての手引き（初版）にも示されているとおり、ここでは大きく三点をあげる。一点目は地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法を充実・改善にあたることの推進、二点目は三要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に活かしていくことができる手立て、三点目として架け橋期に園の先生が行っている環境構成や子どもへの関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及である。

一点目においては幼稚園長がリーダーシップを取りながら、地域の核となり、保育園、小学校やその他の機関も含め連携をとり進めていくことが必要である。区によっては中学校区のブロック分けで保幼小中の交流の機会を設けていることもある。ブロックごとに幼児・児童・生徒の交流や教職員の合同研修を行っていることも聞く。しかし、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成や実施は行われていないことが多い。ブロックでの連携をふまえながら、幼小の

連携の重要性を小学校長に伝えていくこともできる。市区町村教育委員会との連携もとりながらカリキュラムを開発していくことも考えられる。

二点目としては「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への正しい理解が必要である。幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児の具体的な姿で表している。また、到達目標や個別に取り出されて指導する内容ではないことに留意しなくてはならない。小学校教員と十の姿を手掛かりに子どもの様子を話していくことで幼稚園教育の特質である総合的に発達していく姿の理解を促していくことにつながると考える。

三点目は園で行っている保育内容を見える化することである。日々行っている保育の評価・反省を大事にしていく。最近「〇〇」の活用も進んでいるので、ドキュメンテーションの作成も一考である。また、家庭や地域に対してはホームページなどの作成も利用者が多いため有効と考える。写真や動画など利用していくことで家庭や地域が幼稚園での学びが分かりやすく周知できる。

令和五年四月に子ども基本法が施行された。すべての子どもたちのウェルビーイングを保障するためにも幼稚園教育、接続期の教育の質の向上が必要である。園長としてどのようなリーダーシップを発揮し、取り組みを進めるかについて力強い論述を期待する。

**幼稚園副園長選考概要**

幼稚園・子ども園部長 藤井未知江

**【第一次選考】**

筆記試験：七月二十三日に論文一問（事例式一五〇〇字程度九〇分）で実施予定であったが受験者なし。管理職候補者養成研修修了者対象。管  
理職候補者養成研修修了者養成研修修了者対象。  
面接試験：八月十九日に個別面接形式で実施。管理職候補者養成研修修了者対象。



## 勇退役員並びに支部長に感謝し、栄進者を祝う会

去る8月25日（金）に「勇退役員並びに支部長に感謝し、栄進者を祝う会」がホテルベルクラシック東京で開催されました。コロナ禍が開け、人数制限をなくしての開催となりましたが、およそ50名が参加してのとても心温まる会となりました。

青山美和子実行委員長の開会の言葉のあと、加藤 勲令和5年度会長よりご挨拶をいただきました。続いて、今年度ご勇退される方々の中からご参加いただいた川島隆宏先生、浅岡寿郎先生、西村浩先生、山崎聡先生、日下部和彦先生に、感謝状・記念品・花束の贈呈があり、ご挨拶をいただきました。その後、来賓を代表して東京学芸大学同窓会理事長 森 富子 様、東京都伯水会会長 角田 勝彦 様からご祝辞をいただきました。栄進者の方も3名駆けつけてくださり、代表して宮澤英輔 先生から決意が述べられました。

和やかな雰囲気の中、第21代会長 時津 廉 様の乾杯、第28代会長 奈尾 力 様の万歳三唱、第24代会長 小林 繁 様の手締め、伊藤事務局長による閉会の言葉で閉幕となりました。



令和5年度 加藤 勲 会長



川島 隆宏 様



浅岡 寿郎 様



西村 浩 様



山崎 聡 様



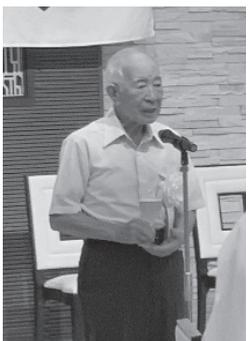
日下部 和彦 様



森 富子 様



角田 勝彦 様



時津 廉 様



宮澤 英輔 様



奈尾 力 様



小林 繁 様



伊藤 事務局長